

## 『第5期分科会 第1回合同WEB会議』開催のお知らせ

①『マーケティング』分科会 (ブランディング・集客・広報)    ②『チームビルディング』分科会    ③『リノベ・家守り』分科会

リーダー

多田 信雄 氏  
㈱アネシス  
専務取締役



リーダー

小野 幸助 氏  
㈱建設工房常  
代表取締役



リーダー

永森 幹朗 氏  
永森建設㈱  
代表取締役



第5期の分科会は、引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため各分科会リーダーのリーダーシップのもと、リモートツール(ZOOM)を介して独自に分科会活動を推進しています。

来年秋ごろ開催予定の関東サミットでの成果発表に向けて、各分科会では『一体どのような活動を行っているのか?』 今回の合同WEB会議では、分科会毎の会議・ディスカッションに加え、それぞれの分科会の活動状況について経過報告をしていただきます。

当日、ZOOMルームに入室されましたら、お名前の変更「分科会番号+社名+氏名」をお願いいたします。

→ 例) 1地球の会工務店 鈴木

分科会番号1『マーケティング分科会』

分科会番号2『チームビルディング分科会』

分科会番号3『リノベ・家守り分科会』

### ■ 第1回合同WEB会議 開催のご案内

日 程：2022年1月27日(木) 13:00~16:00

会 場：ZOOMルーム

参加費：お一人さま 3,000円

締切日：2022年1月17日(月)迄に、地球の会事務局までご連絡ください。



※ 詳細については、第1回合同会議の開催概要をご覧ください。

QRコードはこちら →



# ちきゅうの会通信

地球の会 Vol.65  
NPO法人 環境共創住宅

2022年1月17日発行  
〒530-0022 大阪府北区浪花町1-23 第10新興ビル601  
TEL06-6292-8121 FAX06-6292-8122  
e-mail: info@chikyunkai.com  
http://www.chikyunkai.com  
発行責任者：安成 信次



## 新年のご挨拶

理事長 安成 信次



新年 あけましておめでとうございます。

コロナの終焉が近づきつつある中、時代は大きく変わろうとしています。それは、石油由来の原材料がもたらした化学工業製品の大量生産と大量消費の時代からの転換であったり、SNSによるコミュニケーションの変化やそれをもたらしたITやDXの普及などによるものです。資本主義自体が、大きく変わらざるを得ないものすごく大きな変革が始まったように思えます。

家づくりの世界では、地域循環や地域経済の活性化を目指す地域の工務店がつくる木の家がこれからはますますクローズアップされる時代が来たと思います。地球環境を考えたとき、自然素材住宅が健康にも環境保全としてもBESTな選択であることを、敏感なユーザーは感じ始めています。

いまこそ工務店の覚悟が問われる時です。地球の会が再評価を受ける年でもあります。

副理事長 吉瀬 敏



新年 あけましておめでとうございます。

2年続けてコロナ問題で、社会の動き、企業の有りよう、お施主様との出会い、商談の仕方も大きく変化したように思います。

建築を目指した私たちは、1300年もの刻を経てなお現存する法隆寺を知っています、そこには日々のメンテナンスや大修理などのたゆまぬ努力があります。

一方、同じく約1300年に亘って現存してきたと言われる伊勢神宮は、20年に一度遷宮によって建て替えるため建築としては20年ですが、いまに昔のままの姿を残しております。

いま私たちが求められているのは変わらないものの本質を見極め、チャレンジして行くことではないでしょうか。

年始のこの刻に、いま一度考えを整理し、明日の充実とより良い人生のヒントを見つけたいものです。

副理事長 石橋 常行



新年 あけましておめでとうございます。

2022年がいよいよ幕を明けました。相変わらずのコロナに加え、資材の高騰・インフレ・賃上げなど、我々の経営環境は刻一刻と変化をしております。

この変化を“大チャンスの到来”と捉えることが重要であると考えています。変革を求められている時代にあり、勇気をもって変革するには、コロナ禍は我々にとって都合の良いことも多いと思います。

変化を恐れず、前に進んで参りましょう。

本年は、地球の会会員の皆さまと共に、“動”の年にしたいと考えております。この2年間 静を貫いたからこそ、たくさんの人と会い、たくさんの方と触れ、動き回る。そんな1年にしたいと考えております。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

地域と共に、世界に誇れる住文化の創造

## 地球の会『協力会員 特集』 第十五号

### 株式会社シンラテック

[会社概要]



弊社では、山の管理(伐採、間伐、林道整備)から製材～乾燥～加工～塗装(一部木製品の施工)まで、自社で一貫した流れを構築し、森から人へ繋げることを業務としております。

地元にて伐採された良材は、枠材、カウンター、フローリング等の無垢造作材をオーダーメイドにて製作。それ以外は紙パルプ・バイオマス用の木材チップを製造し、山林資源を有効活用しております。

特に地元の良質な広葉樹(シノノキ等)の加工を行っている全国的にも珍しい木材業者です。

[トピックス]

#### ■ 弊社独自の木材技術革新

弊社では以下の研究開発を進めております。

- 九州大学農学研究院・藤本研究室と国産広葉樹の木材乾燥と用途開発。
- やまぐち産業振興財団・監査法人トーマツの指導による、少量多品種無垢造作材のDX化。
- カリモク家具との国産広葉樹家具の開発と研究。

[会員へのメッセージ]



代表取締役 近藤 友宏 氏

地球の会に入会させていただき誠にありがとうございます。弊社は事業規模は小さいですが、「地球の会」の理念である“国産材の活用・循環型社会の構築”に対し、弊社ならではの取り組みとして“国産広葉樹の活用・無垢造作材製造におけるDX化”を進めて参りたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



企業理念「正心誠意」が、隅々にまで宿る

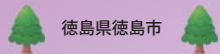
## スモールエクセレント工務店

MEMBER'S PROFILE

インタビュー・文責：地球の会理事・事務局長 佐藤 善秀

### 株式会社エムズ

代表取締役 齋藤修一氏



『正心誠意、日々正しい心と誠をもって仕事に取り組む』

10年、20年、30年と  
お客様の家を  
見守り続ける工務店

<https://www.aimssinc.co.jp>



光が降り注ぐ吹抜けは、抜群の抜け感

### 建築業とアスリートと いう多彩な顔を持つ 齋藤社長

まず、社長である「齋藤修一」氏自身のことから入ろう。現在64歳。地元徳島の工業高校を卒業後、大阪の大手ゼネコンに就職したが3年で退職し、地元に戻り、父親の左官業を手伝う。小学校の卒業文集で「将来は、建設会社の社長になりたい」と書いた気持ちは大人になっても変わらなかった。実家の仕事を手伝いながら、独学で建築士の勉強をし、25歳で二級建築士を取得。さらに30歳で一級建築士の資格を取ると、建築業の看板を掲げた。近所の家の塗り替えやら土間工事等をしていた父親のお客さんのところから、少しずつ修繕、ちょっとしたリフォーム工事の仕事をしていくことができ、目指していた建築業が新たにスタートできた。以来28年、地域で認められる住宅会社となった。さらに、齋藤さんは仕事以外に

意外な顔を持っている。地球の会の研修で一緒に各地の会員さんの所に勉強に行っていたが、同じ部屋に泊まった時の事だった。夜明けとともに齋藤さんはランニング姿で外に飛び出していった。聞くと、どこに行くにもランニングシューズとランニングウェアは必ず持っていくという。どこにいても毎朝のランニングは日課になっているという。高校時代にはラグビーに明け暮れていたが、社会人になってからあまり運動をしていなかったもので、将来の健康のために35歳からマラソンを始め、各地のマラソン大会に出場するようになったという。37歳からはトライアスロンに夢中になって、これもまた様々な大会に出るというアスリートである。64歳の今、彼は小さいころから好きだった絵画にも磨きがかかって、こちらの方は、仕事の中で、様々な形でお客様との接点が生み出されている。エムズからお客様に届けられる印刷物の中にも彼の絵が掲載されている。



株式会社エムズ（外観）



これまで手掛けた住宅の数々



深呼吸したくなるきれいな空気



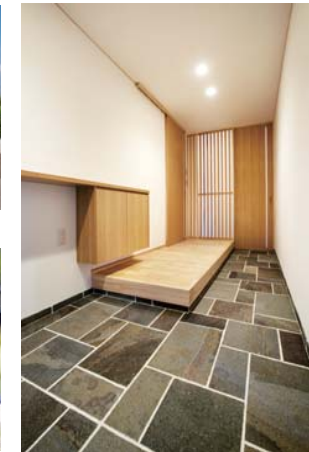
動線の良さにこだわった平屋住宅



ウェルカムドリンク



ガーデンプランニングも請負う



鉄平石の和モダンで上品な玄関

### 企業理念となった 「正心誠意」

エムズさんにお伺いすると先ず温かい日本茶が出てくる。私は運ばれてきたお茶の載ったお盆を見て「わーっ」と思わず声をあげてしまった。赤い四角いお盆に近くの老舗の生和菓子と、季節の南天の鮮やかな赤い実と葉が添えられている。透き通るような薄い上品な陶器のお湯呑みには、さわやかな山吹色をした日本茶がおいしそうだった。わざわざ大阪のデパートまで行って探したという、漆塗りの盆とお茶碗。そこに、季節のさりげない草花を添えるというおもてなしの心。実に見事だった。「お客様が来られたら、必ずこの形でお茶とお菓子を出します」と齋藤さんはニコニコした顔で話す。これまで多くの会社をお尋ねしているが、生和菓子と共に、というこのようなおもてなしの経験は初めてだった。最近、『美の壺』というNHKの番組で見た『生和菓子』職人のことがとても印象に残っていたので、こういう出会いに感動してしまった。きっとこのおもてなしが、これまで多くのお客さんの心をつかんできたのであろう。

このおもてなしに接した時のお客さんの、柔らかい笑顔が見えるようだった。エムズさんでは『正心誠意』という企業理念が様々な場面で形になっている。齋藤さんがこの言葉に出会ったのは創業当初だった。企業理念を考えていた頃、勝海舟の自伝を読んでいた時知った『政治の極意』。もともとは四書五経の一つ『大学』にある『心を正しく保つには、自分を偽らず誠実に対処すべきである』という理想の政治を行うための心得を説いた言葉であるが、齋藤さんはこの言葉に出会って、まさにこれから行う事業の極意を教えてもらったと、すぐに会社の理念とした。

### 「エムズ新聞」をもとにしたOB顧客全数訪問

この理念を具体的な形にした典型的な形が「エムズ新聞」だろう。お客さんとのかわり、コミュニケーションの様子がよく表れている。この新聞は23年間毎月発行され、280号を超えている。B5判4ページの新聞だが、毎月16,000部発行されている。多くは折込とポスティングで使用されるが、これまでのOB客にも持参して配布する。

その形に独自の工夫がある。これまで工事をさせていただいた全物件の中から、「その月」に引き渡したこれまでの物件をすべてリストアップし、社員全員で手分けして、1週間以内に訪問して回る。毎月100~150件ある。この新聞を手渡ししながら、住宅にどこか不具合がないか、皆さんが変わらず元気に暮らしているのか、確認して回るのである。1年ですべてのOB客との直接コンタクト、コミュニケーションをとっている。この新聞の1ページ目には、齋藤さんの書いた絵と社長の手書きによる「修ちゃん日記」が必ず掲載されている。毎回、社長の素直な人柄がとてもよく出ており、お客様との優しい素朴なつながりにあふれている。また、工事中の物件については、毎週その週に予定している仕事の内容を書いた「ご近所の皆様へ」という手紙を配布している。お客様からも常に感謝の手紙が送られてきており、社内のだれもが気が付くところに張り出されている。会社の理念をしっかりと身に付けている社員の皆さんの姿勢がとても印象的で気持ちよかった。阿波徳島のうず潮のようにしっかりと、お客様の心と共にいつまでも渦巻いているのだろう。